

【鹿児島県いちき串木野市】

校務DX計画

学校においては、ICTの活用が進む中、学習指導や生徒指導に加え、日々の児童生徒の情報管理や保護者対応、学校外部との連絡調整、学校内外での事務や会議など、多岐にわたる業務を担っています。日々の教育活動の内容は常に変化しており、多様化・複雑化する業務の対応により、依然として長時間勤務を行う教職員は多く、更なる改善が必要です。

そこで、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言及び令和6年9月に実施した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、教職員の働き方改革の一環として、校務DXに係る取組を進めてまいります。

1 クラウドツールの積極的活用

(1) 市教育委員会と学校との各種手続きのペーパーレス化

本市では、令和元年度からグループウェアを導入し、市教育委員会－学校間、学校－学校間の文書連絡・資料送付ができるようにしています。また、鹿児島県県域教育用アカウントにより、汎用クラウドツールが活用できるようになっています。学校との各種手続きは、これらを活用し、ペーパーレス化を進めます。

(2) FAXの原則廃止への取組

学校のチェックリストによると、「FAXの利用が例外的に必要と考えられる業務」以外の日常の業務にFAXを使用しているが84.6%（11校）でした。これの見直しについては、やり取りを行う相手方の協力を得る必要があるなどの課題があります。少なくとも市教育委員会とのやり取りについては、クラウドツールを活用するなど見直しを図っていきます。

(3) 学校と保護者との連絡のデジタル化

児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡や保護者との日程調整について、クラウドサービスを用いているのは一部の学校だけとなっています。欠席等の連絡は、電話連絡が主である学校がほとんどであり、連絡が殺到する朝の時間帯は電話対応に追われます。また、保護者との日程調整は、配付・回収・集計に時間と手間を要します。オンラインでの出欠連絡や一斉連絡・アンケートについては、令和6年度に全小中学校で利用できる環境を整えました。保護者との日程調整については、クラウドツールを活用することにより実施が可能なので、出欠連絡等も含め、各学校の利活用を進めてまいります。

2 次世代校務 DX 環境の整備

本市は、令和元年度に各学校のネットワークを「校務内部系」、「校務外部系」、「学習系」の3つに分離させ、仮想シンクライアント方式により1台の校務端末でそれぞれのネットワークに切り替えて利用するようにしておりました。

令和4年度に統合型校務支援システムをオンプレミス型（各学校にサーバー構築）で導入し、校務内部系ネットワークで利用するようにはしていましたが、「校務内部系」と「校務外部系」とのデータのやり取りに手間が掛かること、また「校務内部系」に切り替える際に切り替えがうまくいかない場合があり、教職員の負担となっていました。

令和6年1月に文部科学省の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」が改訂されたことを受け、令和6年度の教職員の校務用端末更新の際には、ネットワークを分離するのではなく、アクセス制御によるセキュリティ対策と多要素認証を整備しました。

文部科学省は、働き方改革の観点と GIGA 時代・クラウド時代の教育 DX への適合の観点から、パブリッククラウド上に構築した校務支援システムの利用を推進しています。

統合型校務支援システムの次期更新時（令和9年度）には、クラウド型の統合型校務支援システムを導入するよう検討してまいります。